

築地再開発検討会議（第4回）

議 事 録

平成30年3月8日（木）
第一本庁舎7階 大会議室

築地再開発検討会議（第4回）

【木村まちづくり調整担当部長】

ただいまから第4回築地再開発検討会議を開会いたします。私、会議の事務局を務めます都市整備局まちづくり調整担当部長の木村と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、会議の公開についてご説明いたします。本日の会議の様子は、都市整備局のホームページ上でインターネット中継により配信されております。また、会議資料、議事概要、中継映像につきましては、後日、ホームページ上で公開いたします。

続きまして、本日の委員の皆様方の出欠の状況についてご報告させていただきます。本日は、委員10名のうち7名がご出席でございます。岸井隆幸委員、安永雄玄委員、リサーチ・コラス委員は本日ご欠席でございます。

それでは、会議の開会に当たりまして、小池知事よりご挨拶を申し上げます。

【小池知事】

おはようございます。座ったままで失礼いたします。

本日はお忙しいところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、一連の、この検討会議に大変なご尽力賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。

会議は昨年の10月に第1回をスタートいたしまして、2回、3回とみなさん方からプレゼンテーションをおこなっていただきました。

その後のご意見も含めまして、意見交換も含めて、まちづくりとして重視すべきことや考慮すべき条件や、また、進め方について、多面的なご意見を、これまで頂戴してきたわけでございます。これにつきましても、改めて感謝申し上げます。

また、先月は実際に現地をご覧いただいて、浜離宮から築地本願寺からずっとご覧いただいて、やはり、点で捉えるのではなくて、面で捉えることによって、何が重要かということ、また、より深い、また広いご助言をいただけるものと思っております。

築地は都心にこれほど隣接しているロケーション、めったにないロケーションでございますし、浜離宮の水辺の魅力、あれによって舟運などをどうやって活用すべきか、そして、今申し上げたように、築地本願寺は私も参らせていただいて、なかなかいろいろな工夫もされていること、そして、あそこに、何ですかね、築地本願寺のレストランが非常ににぎわっていて。

【小池達子委員】

インフォメーションセンター。

【小池知事】

ええ。素晴らしいと思った次第でございます。いずれにしましても、地域の面としての広がりやを考慮して、将来の東京にとりまして重要な役割を担う、そうした再開発につなげていきたいと東京都は考えております。ぜひ、この築地のポテンシャルを生かして東京の魅力さをさらに高める、そして持続的な成長につなげていく、そういう観点から、引き続き幅広いご意見をお願いいたたく存じます。

今日はこれまでのさまざまなご意見等々のまとめといましようか、レビューなども含まれていると聞いております。ぜひ活発なご議論になりますことを心から期待を申し上げます。どうぞ今日もよろしくお願いいいたします。

【木村まちづくり調整担当部長】

恐れ入りますが、知事は所用のため、ここで退席いたします。

【木村まちづくり調整担当部長】

それでは、以後の進行につきましては近藤座長をお願いしたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいいたします。

【近藤誠一座長】

皆様、おはようございます。また少し寒さが戻ってまいりましたけれども、本日は多数お集まりいただきまして、ありがとうございます。事務局の方々も、いろいろ資料をたくさん用意していただいて、また、先般は現地視察のアレンジもしていただいて、大変ありがとうございました。知事も言われたように、面で捉えるということを実感することができて、大変有益だったと思ひます。

それでは、これから議事に入りたいと思ひます。本日第4回目になりますけれども、この検討会議、テーマ別の議論ということで、お手元の議事次第1、2、3につきまして最初に事務局からご説明をいただいて、後ほど、できれば半分以上の時間を意見交換・討議にかけたいと思ひますが、そういう段取りで進めさせていただければと思ひます。

それでは、最初の1、2、3につきまして、事務局からまとめてご説明をお願いします。

【木村まちづくり調整担当部長】

では、議事の説明に入る前に、前回会議の概要をご説明いたします。お手元の第3回検討会議の議事録をご覧ください。前回は、3名の委員の皆様からのプレゼンテーションと、欠席されたコラス委員のご意見のご紹介や有識者ヒアリングのご報告を行いました。

議事録4ページ、青木委員から、国内外の再生建築事例、環境技術などについて、5ページ、岸井委員から、鉄道等の広域交通や敷地計画などとの調整について、9ページ、小池委員から、陸、海、空などの視点から満足を目指すなど、プレゼンテーションをいただきました。

また、事務局からの報告事項といたしまして、12ページ、コラス委員の、「住む」と「遊

ぶ」のブレンド、築地というブランドを生かすなど、ご意見のご紹介。13ページ、法政大学田中総長の、水運の活用、発信するなど。同じく13ページ、東京工業大学中井教授の、将来を見て種地を持つ、土地を一度に手放さない手法など。14ページ、江戸東京博物館竹内名誉館長の、新しい築地のまち、にぎわいのまちなど、事務局が有識者の方にヒアリングしてきた内容をご紹介いたしました。

15ページ以降には、その後の意見交換がございます。

では、本日の次第にお戻りいただき、議事（1）は、これまでの会議のご意見の概要を事務局からご報告いたしまして、（2）及び（3）では、ご意見等を踏まえた補足説明及び事例報告を行います。

それでは、議事（1）「第3回検討会議までの意見の概要」のご説明をさせていただきます。お手元の資料1をご覧ください。築地再開発検討会議第3回までに委員の皆様からいただいたさまざまなご意見を、事務局にてまとめた資料でございます。

時間が限られますので、資料でご覧いただければと思いますが、例えば6の、日常生活の中で築地に足を運ぶような魅力を盛り込むことができればよい。8、鉄道や道路などの基盤整備、水と緑のネットワークなど、広域的な視点から考える必要がある。16、東京湾や水辺と向き合う意識が醸成できるような場とするためには、視覚的、環境的、機能的につながるということが重要。19、全部が経済合理性ではないと思うが、ある程度経済合理性がないと、自己満足になりかねない。25、家庭の和食離れが進み、どう食べるかという面で、和食文化にある日本人の心を取り戻すといったことに築地の発信力を活用できるとよい。26、土地利用について、全部を有効利用して使うという考えもあるが、広い土地なので、将来に向け順番に考えていく、一定量余地を残しておくといった意見はヒントになる。29、オープンスペース、緑、水辺などが持つ貨幣換算できない価値がある。直接、貨幣換算価値は生まないが、土地の付加価値をつくり出すことは重要などの意見がございました。

資料に全て書き切れませんが、多くのご意見をいただきまして、皆様からのご意見から整理できますキーワードを大きく6つにまとめました。この会議は合計7回で築地まちづくりの大きな視点を取りまとめる予定とさせていただいており、本日と次回第5回の検討会議で予定しておりますのがテーマ別議論でございますので、よろしければ、この6つをテーマとしてご意見をいただければと考えております。

会議の時間も限られますので、本日は、スライド上の段の3項目、築地と周辺地域との関係に関します「立地特性・スケール」、次に、鉄道、道路、堤防などの現況や計画、敷地の地盤高など基礎的な項目である「アクセス・周辺とのつながり」、そして、事業の進め方にかかわる論点となります「広がり・時間軸」を中心にご議論いただければと考えてございます。スライド下の段の3項目については、次回第5回検討会議にてご意見をいただければ幸いです。

続いて、皆様からいただいたご意見を踏まえ、事務局より補足の説明や海外の事例を紹介させていただきます。それでは、資料2によりまして、築地の立地特性について、本日

ご議論いただくテーマでございますので、補足説明をいたします。

初めに、第1回会議の資料の一部も用いて、改めて築地エリアの歴史・現状を簡単に振り返ります。築地エリアは、江戸時代初期は海でございましたが、明暦の大火によって生じた瓦れきなどで突き固めた土地でございます。

次のスライド、江戸終わりごろの地図でございますが、中央付近に築地本願寺がございまして、周辺は門前町や武家地でございました。左側、緑の点線で囲ったあたりが現在の築地市場と推定されまして、下屋敷でありました浴恩園や軍艦操練所などがありました。明治以降は黄色の部分外国人居留地として発展し、図のような築地ホテルも整備されまして、教育機関の発祥の地であるなど、国際的なエリアで、文化交流・交易交流の場となっております。

次は、明治時代の図でございます。現在の築地市場のあたりは、海軍関係用地として使用されておりました。そうした中、関東大震災で日本橋魚河岸が焼失いたしまして、1935年に築地市場が開場いたしました。次の表は、こうした歴史を年表でまとめたものでございます。

現在の築地市場は、写真のような状況でございますが、水産物・青果物を取り扱う総合市場でございまして、約23ヘクタールの敷地がございます。

次に、周辺の状況などにつきまして、本日ご議論いただきます周辺とのつながりや広がりなどのテーマに関連する内容でございますので、説明させていただきます。敷地の北側には、一般の方も多く訪れるようになりました場外市場が広がっております。また、中央区が設置いたしました築地魚河岸などの、地域のにぎわい資源が立地してございます。

次のスライドは、少し周りを見た図でございますが、築地エリアの地域資源といたしまして、歌舞伎座、新橋演舞場、勝鬃橋、築地本願寺、浜離宮など、伝統や歴史に関する施設も集積してございます。

次は、さらに周りを見た地図でございます。築地を中心とし1キロメートルごとに同心円を記してございまして、半径1キロ以内に銀座、竹芝、3キロ以内に大手町、日本橋などがございます。

次に、周辺エリアでの開発の動きについて資料を作成いたしましたので、ご紹介させていただきます。築地から臨海部約2キロ先の豊洲では、豊洲市場が10月に開場する予定でございます。その周辺の動向といたしまして、図の左の黄色い部分、6街区で、市場と連携して活気やにぎわいを生み出すといったことを目的といたします「千客万来施設」、それから、図の右、4-1B街区や4-2、4-3街区でホテルなどが計画されてございます。

また、次のスライドは、晴海5丁目西地区でございます。市街地再開発事業によりまして、東京2020大会の選手村の整備を進めております。大会後のレガシーになるまちづくりに取り組んでございまして、大会後は約5,600戸の住宅と商業施設が計画されてございます。また、晴海5丁目の北側の豊海地区では、市街地再開発事業によりまして住宅・店舗などの整備も計画されてございます。

次のスライドでございます。浜離宮の南側の浜松町駅・竹芝駅周辺では、都市計画に位置づけられている開発が3カ所で進んでございます。まず、パースの一番上でございますけれども、浜松町駅西側の浜松町2丁目では、事務所、店舗、交流施設、次に、東側の竹芝地区開発では、事務所、商業施設、サービスアパートメント、ビジネス支援施設、下の南側の芝浦1丁目では、事務所、商業施設、ホテルなどが計画されてございます。

また、右の図のオレンジの線にありますように、竹芝ふ頭から竹芝地区開発の地区内を通りまして浜松町駅、芝浦1丁目地区までを歩行者専用デッキで結ぶ計画がございまして、既に整備されております汐留地区とのデッキとつながりまして、将来的には竹芝ふ頭から汐留地区までの歩行者ネットワークが整備されることとなります。

次のスライドは銀座でございます。都市計画に位置づけられている開発として、近年、3つの施設が整備されてございます。6丁目のギンザシックスでは、店舗、事務所、文化施設と約4,000平米の屋上庭園が整備されております。真ん中の写真、三越の増築では、百貨店、飲食店、下の写真は歌舞伎座でございまして、劇場、交流施設、事務所が整備されてございます。

次のスライド、周辺の緑・公園・水辺のオープンスペースについて説明します。周辺にはさまざまな公園やオープンスペースがございまして、特に浜離宮恩賜庭園は、大規模な緑をたたえております。また、隅田川沿いでは、下の写真のようにテラスも整備されてございます。

次のスライドは、本日も議論いただくテーマのアクセスにつきまして、左側の図は現在の地下鉄の交通アクセスで、地下鉄の駅が近隣に3駅、築地市場駅と築地駅、東銀座駅がございまして、右側は国の審議会の答申の図でございまして、将来的には青色の点線で示している鉄道の路線の新設なども構想されております。

同様に、次のスライドは、道路のアクセスにつきまして、左側の図の真ん中、赤い色の実線の首都高晴海線の豊洲―晴海間は、あさって10日に開通予定でございまして、赤の点線部分、首都高速、都心環状線までの区間につきましては、都市計画に位置づけられているという状況でございまして、また、左側の黄色の実線は環状2号線でございまして、現在整備中です。この環状2号線には、BRT、写真のようなイメージのものでございまして、BRTが計画されてございまして、臨海部の発展を支える交通機関となります。

さらに、陸だけでなく、水上交通、舟運の活性化に向けた取り組みも進められてございまして、観光・交通手段として定着させることを目指してございまして、現在は、例えば浅草を起点として、両国や聖路加タワー、隣接する浜離宮恩賜公園などを経由し、日の出ふ頭、お台場海浜公園などを結んでいる便などがございまして、また、平成28年度より東京都では、羽田空港と都心や日本橋など内陸を結ぶ複数のルートで舟運を活性化させるための取り組みを行っています。また、加えまして、築地の敷地は南側で隅田川に面してございまして、将来は防災船着場を設置する予定となっております。

次のスライドは、これら交通インフラについてまとめた図でございまして、築地の敷地の地下には、グレーの線で地下鉄大江戸線が通過してございまして、また、敷地の北側は新大

橋通り、東側は晴海通りや区道と接してございます。隅田川では水上バスが運行しております。将来に関しましては、黒で示しております環状2号線が敷地を貫きまして、その環状2号線に、緑で示しておりますBRTのルートが計画されております。青の破線で示している首都高速道路も、敷地の北東側を通過する計画もでございます。薄い緑の楕円で示しておりますのは地下鉄の構想でございます。交通インフラについてはこういった状況でございます。

次に、これまでの会議で、再開発に当たっての前提条件として、環状2号線との関係ですとか高低差など、条件について押さえておく必要があるとご意見をいただいておりますので、作成した資料でご説明いたします。

先ほども触れております環状2号線は、敷地の浜離宮側を通過いたしますが、本線は上の断面図の右側、臨海部方向から来た車両は、築地大橋を渡りまして築地の敷地内を通過しまして、新大橋通りの手前、黒い矢印で示してございますが、このあたりで地下に潜っていきます。こうした形状でございますことから、環状2号線を挟んだ2つの敷地に現在の敷地が分断されることとなります。

次に、スーパー堤防でございます。敷地の隅田川側で、地震に対する安全性と親水性の向上を目的としたスーパー堤防の整備が計画されてございます。スライドの上の断面図のように、堤防の頂点と現況の敷地、つまり高い部分と低い部分では数メートルの高低差が発生します。右下の写真でも、斜めになっている他の場所の事例で見ただけのかと思います。なお、建物を建てる場合には、図の盛り土部分に、上の断面図ですと右側の部分に建物を建てることができます。

次に、浜離宮の前にある防潮堤でございます。会議でも、防潮堤を歩くことが可能になれば、歩行者ネットワークが広がるとのご意見がございました。防潮堤は高潮対策のために整備されているものでございまして、浜離宮の前は写真にありますような形をしております。築地と竹芝の間には、途中、水門が2つあり、船舶が通れるようにもなっております。また、防潮堤の最上部と底部、つまり高い部分と低い部分では、先ほどのスーパー堤防と同じように数メートルの段差がございます。また、今年10月に築地市場が豊洲市場へ移転いたしまして、築地市場の建物を解体いたしまして環状2号線を整備するとともに、東京2020大会の輸送拠点として本敷地を活用することとなっております。

次に、スケール感についてでございます。前回の会議でのプレゼンテーションでもお話がございましたので、築地の大きさを共有していただくために、さまざまな施設・公園・地域と比較してみました。赤い線で囲まれた範囲が築地の大きさでございます。黄色の線が他の場所の範囲でございます。

まず人が集まる施設としまして、東京ドームの大きさが、上の真ん中の図。それから、右はシンガポールのマリナーベイサンズでございます。左下、黄色い線が、臨海副都心でございます展示場などの東京ビッグサイトでございます。それから下の真ん中は、これまで会議でもご紹介がありましたが、パリのグランパレでございます。

次のスライドは、オープンスペースといたしまして、左上が日比谷公園と比較したものの。

右上が、後ほどご紹介いたしますニューヨークのブライアントパークという公園でございます。下は、他の開発と比較するという意味で、六本木の東京ミッドタウンと比較したものです。右下は、この場所、都庁でございますが、ビル2棟と議会棟も含めました範囲と比較してみました。

次に、周辺地域との比較をしてみました。築地の周辺地域、青い線が1キロで囲んだものでございます。前回の会議でもご紹介のありましたドイツのハーフェンシティという土地利用転換した場所と比べてみますと、右のような状況でございます。

次のスライドは、横浜のみなとみらい21と比較してみたものでございます。黄色い線が横浜のみなとみらい地区でございます。

次に、事務局で調べました海外の事例について、ご紹介させていただきます。アジア、ヨーロッパ、アメリカでのまちづくりの事例として、5つの事例をご紹介します。

最初に、これまで会議でご紹介がありましたシンガポールのマリーナベイでございます。こちらは、会議でご意見いただきました段階的整備、本日ご議論いただきますテーマとしては時間軸と表現してございますが、それと、水辺・オープンスペースなどに関する事例としてご参照いただければというものです。

ここでのまちづくりの特徴といたしましては3点ありまして、段階的な土地利用計画の更新、ネットワーク化された公共区間の充実、マスタープランに基づく交通インフラの拡充が挙げられます。ここでは、国の関係機関が都市計画などの立案と開発の取りまとめを担当してございます。

まず、段階的な土地利用計画の更新につきましては、マスタープランが作成され、この中で用途未定地というものを設定し、将来的なインフラ計画とあわせた長期的な土地利用を誘導しております。図が3つございまして、黄色の部分が用途未定地というものでございまして、2003年から時期を経るごとに、黄色の部分が徐々に少なくなっていること、マスタープランが変わっていくということが見ていただければと思います。

次のスライドは公共空間の充実でございまして、写真のようなパブリックスペースや文化・観光がマリーナベイを取り囲む形で整備されています。図面のオレンジ色に書いてございますプロムナード等がネットワーク化されてございます。また、交通インフラの拡張といたしましては、マスタープランの更新とあわせまして、交通ネットワークの拡張も順次位置づけて開発が進められております。

次に、アメリカ・ニューヨークの市立公園、ブライアントパークの事例をご紹介します。これまでの会議で、オープンスペースの魅力などというご意見が多くございましたので、ご紹介させていただきます。

ここはマンハッタンの繁華街にあります3.9ヘクタールの公園でございまして、BIDという制度を用いまして民間の運営組織を設立いたしまして、地域の地権者による共同負担金を原資にイベントや、警備、清掃、管理運営が行われておりまして、さまざまなアクティビティーが誘発されてございます。写真にございますように、年間約1,000ほどのイベントが行われているということで、マンハッタン以外の地域からも多くの来園者が訪れる

魅力的な場所となっているということでございます。

次に、イギリス・ロンドンのキングスクロスでございます。こちらはキングスクロス駅の北側に貨物倉庫などがあった地区で、オープンスペースを中心とする約27ヘクタールの再開発ということで、土地利用転換がなされているという事例でございます。地区内には芸術大学のキャンパスが立地しておりまして、IT企業のオフィスも予定されているなど、多様な人々が集まっております。開発の中心となるグラナリー広場では、写真のように子供連れや学生の憩いの場となっております。水辺に面するオープンスペースにもなっているのが、右下の写真などでご覧いただけるかと思えます。

次に、アメリカのブルックリン・ブリッジ・パークでございます。こちらはニューヨーク市のイーストリバー沿い約2キロにわたりまして、スポーツを楽しめる機能などが整備されてございます。公共空間を中心とする複合開発の事例でございます。ここでは水辺の落ち着いた空間もある一方で、市民スポーツをテーマにサッカー、バレーボール、バスケットのコートなどが整備されておりまして、さまざまなプログラムが開催されており、年間約100万人以上が参加しているということでございます。

最後に、韓国・ソウルのテハンノでございます。この地域はソウル大学の移転に伴いまして若者が少なくなり、まちの活気が失われつつあった場所でございます。移転後の跡地に公園を整備しまして、1979年に現在のアルコ劇場の前身となる文芸会館、それから美術館が建設されていきますと、周辺に小劇場が集積し始め、若者文化の発信地としてまちが活性化してきたということでございます。その後、演劇系の教育機関も立地し始め、今では演劇のまちとして文化地区にも指定されているということでございます。時間をかけながら新たな価値や魅力を創出しているまちと思われま。

本日事務局でご用意した説明は、以上でございます。

【近藤誠一座長】

ありがとうございました。さまざまなデータ、海外の事例等、有益な情報をいただけたと思います。

それでは、議事の4、テーマ別議論に入りたいと思います。資料の4に、先ほどご説明があったように、皆様のこれまでのご意見からキーワードを6つのテーマにまとめたものが1枚紙でございます。今回と次回、2回におきまして、これらのテーマについて議論していただくということでございます。

それぞれもちろん相互に関連をしておりますので、一つ一つ全く独立して議論するということではできないかとは思いますが、とりあえず本日は、最初の3つ、アの「立地特性・スケール」、イの「アクセス・周辺とのつながり」、そしてウの「広がり・時間軸」と、この3つを中心にしてご議論をいただければと思います。12時まで予定されております。たっぷり時間はあると思いますので、ぜひご自由なご意見を伺えればと思います。

次回も同様の議論をした上で、いよいよ最終的な取りまとめに行かなければいけないと思いますので、着地点といいたいでしょうか、最終的な同意にどういった提言を我々としてした

らいいかをある程度念頭に置きながら、本日の議論を進めていただければと思います。
では、どうぞご自由にご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。青木先生。

【青木茂委員】

これ、議論を（ア）、（イ）、（ウ）の順番にいくんですか、それとも3つをパックでしゃべっていいんでしょうか。

【近藤誠一座長】

まとめてでもよろしいかと思えます。それぞれご発言者の自由にお任せをしたいと思えます。

【青木茂委員】

立地に関してこの間現地を見学させていただきまして、銀座から歩くと商業目的ではいささか遠いのではないかなという、ちょうど中間的な感じがするんですよね。中間に何か欲しいなど。何か分からないが、何か欲しいなって感じがしました。

それと、海との関係、水辺の関係というのが相当重要であろうというのを、出口先生と一緒に回ったんですけれど、お互い共通認識として感じております。

もう一つは時間軸では大きなプランを作りながら、短期でやるのではなくて、かなり時間を掛けてやった方が良くはないかなと。経済状況も変わると思うし、僕も69年生きてきました間に、認識自体も変わってきますので、長期的プランをやる必要があるのではないかと考えております。

私事で恐縮ですが、先週シドニーとバンコクに用事で行ってきまして、シドニーはオペラハウスの近所は盛んにウォーターフロント沿いがあるんですけども、あまり大きな町ではないので、市内を見ても結構古い建物を小ぶりなものを残しながら、歴史を繋いでいるというのが凄くやっぱり魅力的で、そういう所に、ある種のちっちゃなミュージアムであるとか、お茶を飲むスペースであるとかレストランというのが、非常に魅力的に感じていますし、まちの中に入っても古い建物を生かしながら隣に超高層があるという歴史の重層を感じるというのが日本にはない魅力ではないかという感じがしました。

バンコクは年に数回行っているんですけども、海上交通が盛んな所なんですけれど、なかなかバランスが悪いなという感じがします。交通網にしてもですね。

そういうのを参考にしますと、時間的なスケールというのをもう1回考えながら具体的な案を練っていく必要があるのではないかということ、冒頭の議論で口火をきらしていただきます。

【近藤誠一座長】

ありがとうございます。最初の点ですが、銀座から歩くとちょっと距離があるので、中間に何かを...というご意見だと思いますが、ある程度具体的なアイデアとかをお持ち

ですか。

【青木茂委員】

その間に調査していないんですけども、民家というか古い建物の商業施設で足袋屋さんか何かあるんですね。あのようなものが点在していくと、歩くのがあまり気にならないのではないかと感じるんですね。

そういうのをもう少しピックアップして繋ぐということが重要でないかなと。結局、その歩かせるってことは、どこの都市計画でもやっていますので、銀座からどういう風に歩かせるかという、ピックアップするものを今から見つけていくことも重要ではないかなという感じがするんですね。非常に小さい事なんですけど、人を歩かせるという事が重要ではないかなと。

【近藤誠一座長】

はいありがとうございました。他にご意見いかがでしょうか。

【大崎久美子委員】

今の青木委員の歩かせるというところですけども。先日現地視察をして感じた事というのは、周りに歴史的な史跡というか、非常に魅力的な物があふれていると、そういう様な所を緑道のようなもので、築地川公園に遊歩道が少しありましたけれども、なにか緑道的なものをひろげて、散歩道、歴史散歩道のような形に開発をそういったところにも広げていっていただけたらなというようなこと、アクセスという所で感じました。

そして、立地特性なんですけれども、その中で、一番配慮しなければいけないという様な所では、隣接している場外市場の存在ではないかという風に思いました。スライドのような賑わい、昭和レトロな雰囲気、非常に魅力的であるという事を是非、街並みですとか、培われた伝統文化を繋いでいってもらいたい。でそういう覚悟でいらっしゃるかと思えます。

一方で老朽化は否めないところがございます。食べモノを扱うお店が多いことから、そういうところで衛生面での整備というのにも必要ですし、もちろん地震・火災を防ぐという防災の面でのメンテナンスが必要となってくる。また、この後、築地市場が移転した後というのはどうしても今以上に一般のお客様の比重が高くなっていくという所があるかと思えます。そうなった場合に京都の錦市場などを思い浮かべるんですけども、一般客に軸足を置いたような整備というのが必要になってくるだろうと。例えば、アーケードの増築みたいなそういう所も考えられると、色々規模的にも大きな整備が必要になってくるかなというところで今までの繋がりを意識しますと、この築地の再開発との連動・連携というのが必要ではないか、あるいは、この中に組み込んでくという事も、もしかしたらあるのではないかと、そういったところを考えました。

【近藤誠一座長】

はいありがとうございました。緑道とおっしゃいますのは、緑の道のことですね。ありがとうございました。

【青木茂委員】

自転車の交通というのは、皆さんお考えなんでしょうか。自転車を使った、最近自転車盛んですよね。そのアクセスであるとか、回遊性というのが今まで議論になかったんですけども、逆に都か何かで議論があるのかとちょっと思ったんです。

【近藤誠一座長】

事務局の方から何か答えられますか。

【事務局】

今、すぐ近くで御紹介できる動きがあるわけではありませんが、ご意見いただきながら、今後考えていくことかと思えます。

【近藤誠一座長】

ありがとうございました。自転車はどんどん増えていますので、歩行者と自転車と車とどういうふうに仕分けるか大事だと思います。

【小池達子委員】

青木委員のおっしゃった自転車のことは先だって私もプレゼンテーションの中で一つのアイデアとして申し上げたんですけども、やはり歩行者と自転車と車、車両の棲み分けが非常に将来的にも念頭に置くべきエリアだろうと私は考えております。自転車専用レーンであるとか今自転車の若者、外国の方も含めて非常に活用しておられますので、何かいいアイデアでそこに活かしていければと、私も思っております。

【近藤誠一座長】

はい、ありがとうございました。他にご意見はいかがでしょうか。

【出口敦委員】

今日、大変示唆的な事例を整理していただいた。示唆的ないろいろなアイデアが読み取れる。シンガポールの事例を整理していただいたが、この中に書いてあるタイトルで整理されているように、キーワードは、一つは「段階的整備」であると思う。

(ア)のスケールという点に関連するが、スケールという意味はいくつかあるが、東京都心部全体を見て、築地の跡地の再開発を考えるという意味でのスケールの設定と、築地の跡地そのもののスケールの意味もある。約23ヘクタールという規模だが、大規模開発と

小規模開発のどちらかという、大規模開発の部類に入る。これを短期間で一気に開発することに対する懸念を我々、共有していかなければならないと思う。

これに対し、シンガポールが行っているマリーナベイという大規模開発は段階的、戦略的に都市開発を行っている。

うまくネットワーク化して、本当に豊かな公共空間で人を回遊させている。

段階的に開発していくと、当然、1期、2期、3期、4期と開発していくことになるが、各段階をうまく調整していく機能が必要になってくる。シンガポールは、トップダウン的な組織としてURAという組織を持っていて、ここで調整、コントロールしている。

そういった仕組みとセットで段階的に整備していくことを真剣に考えておく必要があると思う。

築地の周辺、近隣の開発として、最初に竣工するのが竹芝で、浜松町二丁目、芝浦一丁目次々と開発、竣工していく。約10年以内の間に、これだけ大規模な開発が近隣でされていく。しかも、ほとんどが事務所と商業施設。ある程度、そのようなものの進む方向性を見極めながら進めていく必要がある。

また、前回の岸井先生のプレゼンで、公共交通のインフラ整備が構想されている。国の方で。これがもしかしたら、築地の真下を通るかもしれない。あるいは、結節点となるような駅機能がここに立地するかもしれない。これは、土地利用に対して、大きなインパクトを与えるもので、うまくいけばものすごい大きなプラスになっていく。うまく整合を図りながら、土地利用について、長期的な時間軸を置いて、段階的に整備していく戦略を持つていくことが肝要と思っている。その辺を考えていただきたいと思う。

【近藤誠一座長】

段階的に進めると言っても、もちろん全体像をあらかじめ持ったうえで、具体化を段階的に進める、あるいは、周辺の開発を見ながら進めるということですね。

【出口敦委員】

事例報告のシンガポールでも、やはり、マスタープランを持っている。日本の都市計画制度でいうと、地区計画の方針のようなものであるが、そういった、ある程度の方針を持っておいて、社会経済情勢やインフラの整備状況を見極めながら、段階的に整備していく。単に野放図に手放しの状態で段階的に整備することではない。ある程度方針を共有しておく。

段階的に整備していくと、各段階の間の調整が必要になってくると思うので、その間の調整の機能、仕組み、組織をきちんと整えておくことが必要だと思う。

この事例としては、第2回目のプレゼンで申し上げたが、柏の葉アーバンデザインセンターがあり、長期にわたる区画整理事業と各土地活用の調整を行っている。これは、公・民・学連携の組織として機能している。ほかにも事例があると思うが、そういったものを参考にしながら、調整の仕組みや組織とセットで段階的に整備していくことを考える必要

があると思う。

【近藤誠一座長】

ありがとうございました。それでは、宇田先生。

【宇田左近副座長】

この議論のテーマ6つ用意していただいたが、今回の議論はそれぞれごとで、事例も含めた議論でいいけれども、最終的には6つともワンセットで議論されるべきではないかと思えます。

ここで、今後の基本方針でどうまとめるかは別として、それぞれ密接な関係があるものなので、どれか一つをとって、これは、広域で考えるけれども、一発で開発すべきだ、みたいなことは、なじまないと思えます。これら、6つのことについてワンセットで見ると、整合性のある、2020以降の一つの新しい開発の在り方が見えてくるのではないかと思ったところです。

特に、広がりということで考えてみると、ソウルのテハンノを事例で挙げていただいたが、スケールの大きなところではないが、ここに、マロニエ公園があり、そこに、初期にアルコ劇場が作られる。その周辺に、百六十いくつかの劇場が自然発生的に集まってきて、ここが活性化する。

これは最初に行政がそこに小劇場群を連れてくるとか、いっぺんに来るとかいうのではなく、この公園と劇場を整備し、いくつかの大学がここに来るという時間軸の中で、最終的に、この地域が広がりを持った形でにぎわいを持ってくるという例だと思えます。

先ほどの、マリーナベイは、マスタープランに沿った形で時間をかけながら、未利用地ということを決めながら、徐々に価値を上げていくという話。

テハンノは、一つの場所からスタートするが、広域で考えて、そこが民間を中心に賑わいが自然発生的に生まれるようにうまく考えていく。それにまた、民間が乗ってくる。

そのためには、その間にそこに人が集まれるようなアクセスの仕組みが整備されていくと、こういうことが一つワンセットで出てくる話ではないかと思えます。

今日（ア）、（イ）、（ウ）をそれぞれ議論したうえで、次回、通して議論できるということになると、方向性が見えてくるのではないかと思えます。

【近藤誠一座長】

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

【小池達子委員】

なにか、中核というようなものあがれば、それに一つの大きな役割が担えるのではないかというお話ですね。時間軸、広がりといった段階的といったこと、ソウルの例のような形で発展していくということもあるのだなということのを思い、それを宇田委員が結びつけ

た話をさせていただいて、その考えに納得している次第です。

そのマスタープラン、その中に中核施設、役割、機能を担わせるかという、コアになるところをこの検討会議の中でいくつかヒントをあげていき、それが将来的に具体的に段階的な広がりを重ねつつ、具体的に進められていくことになるのかなという、姿勢というか姿が、頭の中にでてきたところです。

そうすると、中核となるのは何がいいのかという、コンセプト作りということにもなるかと思いますが、前回プレゼンさせていただいた、国際ビジネス紛争の拠点といったものも良いのかと思っております。それ以外でも中核を担うようなものがあれば、自然発生的に、かつ段階的にということを考えてのですが。

出口先生に教えていただきたいのですが、先ほどのシンガポールの例は開発として、私も理想的だと考えてはいますが、いちどに長期的なことを決めてしまわないで行っていくことのデメリットみたいなことは何かありますか？

【出口敦委員】

私の発言の後半の方で申し上げましたが、結局、時間差をおいて順次整備されていくと結果的に出来上がったものが全体としてバラバラなものになってしまうことが一つの懸念事項です。例えば、オープンスペースの繋がりが無いとか、歩行者空間がネットワーク化されていないとか、あるいは、同じような施設が出来上がってしまうとかですね。

そのためにやはり、横のつながりを持たせる調整の機能が必要だと思います。これは本来なら行政がやるべきものかもしれませんが。あるいは、行政と専門家が、きちんと一緒に調整の組織をつくってやるものかもしれません。

シンガポールの例では、行政がトップダウン的な権限を持ち、そこに専門家も加わっているのですが、URAという組織がそういう調整やコントロールをしているわけですね。そういうものが必要になってくるかと思えます。

【小池達子委員】

そうするとやはり牽引していくような、ある程度パワーを持ったところの役割というものが必要になるし、存在が大きくなるということですね。

では、ソウルの場合自然発生的に成功した例が先ほど挙がりましたが、あそこは、偶然にそうなった結果として成功したという風に見るべきなんですか。

【青木茂委員】

まあそうでしょうね。核になるものができる、付随する人が周りを囲むという感じで。あまり誘導的ではないと思うんですよね。偶然にそうなったっていう。日本で言う下北沢みたいな感じじゃないかと思うんですよ。

【小池達子委員】

ソウルの場合は、行政的なというか、牽引するような立場の何かがあったというわけではないんですか。

【青木茂委員】

あの大きい大学の誘致とか、僕も詳しくは分かりませんが、絡んでたと思うんですが、そこを作ることによって、付属したものができて、それが広がったという感じじゃないかと思うんですよね。

よくやっている手法というか、スラム街みたいなところに、ある種の公共建築を作って、それでこう職業トレーニングセンターみたいなのを誘致しながら、活性化しようという手法はかなり行われていますよね。

この場合は、かなりハイソサイエティの場所なので、手法的にはかなり長期的なものを持ってやるべきじゃないかと思えますけどね。

自然発生的というのは、もしかしたら周辺部にあるかもしれないけれども、今の築地の場外というのが自然発生的ですよね。コントロールした方が良いのではという感じですね。

【近藤誠一座長】

はい。ありがとうございました。

事務局の資料では、これまでの議論を6つのキーワードに整理していただいているわけですが、次回もう一度全体を議論することとなると思いますが、たぶん知事が一番われわれに期待しておられるのは、(エ)のどういう魅力を発揮するのか、どういう付加価値を付けるのかであり、それを実現するに当たって、様々な制約なり考えるべきことがあって、それがその他のキーワードである立地の特性でありアクセスであり、時間軸でありということかなとちょっと感じております。

その上で、今日のご議論では、マスタープランをしっかりと作った上で、全部いっぺんにやるのではなくて、段階的に進めた方がいいというご意見が多かったような気がいたします。

それともう一つは、(イ)の方でつながりという概念がありますが、それは築地の中の個別の建物なりなんなりをどうつなぐか、それから築地とその周辺とをどうつなぐか。それから時間的に、過去と歴史と現在をどうつなぐか、未来とどうつなぐかというふうに、「つながり」というのが、全体を通してのキーワードになるかなと思います。

それから人が流れる時の場所と場所をつなげるのが交通手段ですから、先ほど出ましたように、車と自転車と歩道、つまり歩行者の通り道とによって魅力あるさまざまな施設をどうつなげることで魅力を増すことができるか。といった観点から、ぜひ次回は全体を含めて、議論していきたいと思えます。

特に時間的にずらして再開発を段階的に進める場合には、中核的なもの、コンセプトが

重要になります。これはまさに（エ）の魅力・付加価値にまた戻るわけですが、築地は一体どうなったのかということは何か一言で言えるような、中心的なコンセプトがあって、それが様々なつながりを持ちながら、個々のコンポーネントと全体を構成していくというようなことになるのでしょうか。まだ抽象的ですが、より具体的なアイデアをぜひ委員の方々からご意見をいただきまして、今回はこの6つのコンセプトを議論する訳ですが、できる限り具体的な最終的な提言というか、まとめを念頭に置いて、ご議論をいただければと思います。

それから、ヒアリングというか、外からの意見については、何か進行中のものはあるんですけど。

【事務局】

これまでの会議で、様々な意見を聴いたらどうかというご意見をいただいておりますので、いま準備をさせていただきますので、次回に向けまして、進めてまいります。

【近藤誠一座長】

では、今回の会議、あるいはその前に、そういった外からのご意見なり注文なりが、今回の会議でご紹介いただけるということでしょうかね。はいわかりました。

【宇田左近副座長】

さっきの議論にもう一度戻りますけれども、特にもう少し我々念頭に置いておいた方がよいことについてですが、今日セムスケールということで、補足説明をいただきました。実は広域という意味は、先ほどのように、ここに何か生まれることによって、その周辺へのインパクトがどうなっていくのかあるいは周辺にどういうものができてくるので、それをどう結び付けるのかという考えが一つある。

もう一つは、この築地の敷地自体が広域であるということです。このスケールに落とし込んでみているのですが、ご覧になってわかる通り相当の規模であることを改めて感じるわけですね。

ちょっと間違った議論として、ここは単一機能でこれだとか、そういう決め打ちを期待される方がいるかもしれないけど、実はこれ大変広いスケールの敷地です。アクセスも改善しなくちゃいけないところもあるし、それから自然に人が集まる、先ほどのオープンスペースの人が集まる事例がありましたけれども、そういうことも含めて、人を集める機能として考えた場合に、これは単一機能でAかBかどっちなんだみたいな話とはちょっと違うんじゃないかということです。ここは、今回の役割・機能という中で議論があると思います。

先程の例で、韓国にもう一つ例があります。東大門デザインセンターというのがあります。ザハさんが設計したところです。あれとテハンノの両者を比べてみると、前者は広い敷地のところに、デザインの促進をするために、巨大な施設をお金をかけて一つどんと作

った。周りの東大門市場という非常ににぎわいのあるところと切り離して、以前運動場であったところに作った。そこでデザインを振興するぞって言って単一機能のものを作ったわけですね。しかし行ってみると誰も行ってない。

にぎわいとは遠い世界で、こういうところで果たしてデザインというものがどう波及していくのかと考えさせられます。

そこにデザイナーが集まって何か新しいことが産まれる空間になっているか考えた場合に、そうっていない。行政が考えた意図の下に、デザインが大事なのだといってそういう機能をどんと置いてしまっている。周りの発展と全く切り離されていると、こういう例ですね。

これはこれで意図があってやられたことと思うので、批判するつもりは全くないんですけども、一方で後者のテハンノみたいな例もあります、私はボトムアップを組み合わせると、トップダウンでこれだと決めてやるっていうのは、ちょっと違うんじゃないかと思いました。

こういう軸でかんがえてみる。敷地自己完結なのか、それとも広域に周辺に波及していくのかという軸。それからボトムアップ波及型かトップダウン型かという軸。どうしても一般に考えられるのはトップダウンで、かつ自己完結型です。そうなるここは一体何なのだという議論に陥りがちなんですね。

私はそのトリックには陥らない方がよいのではないかと思います。ですから、今回の議論でもこの機能をトップダウンでこの敷地完結で作るのだ、みたいなことは避けたい。もう少し思考を広げて議論をしていきたいなと思います。先ほどのような、もう一つの例みたいには、決してなっちはいけない、と私自身は強く思っているところです。その上でこの6つのテーマを共通の議論としていったらどうだろうかと思えます。

【近藤誠一座長】

ありがとうございました。青木委員、どうぞ。

【青木茂委員】

こういうことを言ったら叱られるかもしれませんが、豊洲が結局10月にできるわけですよ。この議論は終わっていると思うんですけども、豊洲を1年後とか2年後にどういうふうな街になるのか検証するとすごいおもしろいと思う。市場があって、商業があって、にぎわいのもを作ると、それがどういうふうに発展するのか。逆に言ったら韓国のザハがやっているものになるのか、というのが分析の一つの大きな手がかりになるんだと思うんですよ。

その過程をみれば我々はそれを教訓として成功例であれば見習ったらいいいし、もしうまくいかなかったら何か手を入れなくちゃいけない。その手の入れ方というのもで、検討したらいいし、そこで、アーバンデザインセンターなるようなものができれば相当大きな教訓になるという感じがします。

【近藤誠一座長】

ありがとうございました。豊洲が10月スタートでどうなるか見た上でという点ですが、築地の再開発のタイムスケジュールと、豊洲がどうなるかが分かって来るタイミングの関係は大丈夫なんでしょうかね。今どういうスケジュールが知事のあるいは都の頭にあるかわかりませんが、再開発を進めながら、豊洲がどうなっていくかを常時みて、そこからいろいろレッスンを学ぶということだろうと思います。特に自然発生的、つまり人がなんとなく自然に集まるといのはたしかにすばらしい、そうだったらいいと思います。それをプランナーのほうでどうやってそうした場を作るのか、強制するわけにはいかないので、その辺が難しいけれどもしかし、きわめて人工的でいわば役所的な場をつくるのではなくて、人々が集まってそこから自然になにか生まれてくるようなそういうような魅力ある場の提供が大事だろうと思います。

【出口敦委員】

さきほど小池先生からご発言があった限界性をどういうふうに創っていくのかという話に関連してですが、私はテハンノに久しく行っていませんが、大きな要因はあそこに公園があるということだと思います。若者たちが自由に集まれる場を創ったということですね。それは非常に大きい最初のきっかけだったと思います。大学が移転した後も学生や若者が集まれる場所があるのは大きかったと思います。そういう意味では行政が最初のきっかけとなるような魅力的なオープンペースなり、あるいはネットワークとなっていくような公共空間を創っていくことが重要な役割だと思います。

今日のテーマでは、立地特性、あるいは周辺とのつながりが2番目のところにあります。現地を見学して思いましたが、隅田川が非常に大きな、ある意味結界のようになっている。築地川も浜離宮側との結界になっている。そこに環状2号線が通り、バッファーのような役割が強まってしまう。築地市場を中心にするという観点も一つあるが、もう一つの観点として、例えば隅田川を一つのオープンスペースとして見てみると、本当にその周囲がぐるっと回遊できるようになっているかどうか。

今も2号線の橋に歩行者専用路をつくっていますが、少し内陸のほうに行かないと橋の歩行者専用路に上がれないようになっていたりする。勝鬃橋も歩道はあり、階段状になっているところから上がることはできる。例えば、築地跡地側にもスーパー堤防をつくる計画が補足資料にあるが、こういうものも隅田川を回遊していけるような、ジョギングして回れるようなオープンスペースの一部になっていくような考え方が必要ではないかと思います。そうした点が限界性を創り出していき、賑わいを創り出していききっかけにもなります。周辺とのつながりということは築地を中心にして考えるのではなくて、ちょっとずらした視点で考えて、むしろ隅田川を中心として考えてみる。その時、築地のスーパー堤防がどのような役割を果たしていくべきなのか、そういった観点で考えることが重要ではないかと思います。行政が最初にきちんと整備すべきもののひとつでないのかと思います。

【近藤誠一座長】

ありがとうございました。

小池委員の仲裁裁判所でしたっけ。あれは波及効果、つまり築地の今の跡地の中あるいはその周辺と外とのつながりという点でどんなことが期待されるのでしょうか。

【小池達子委員】

東京にそういった施設、日本にもそういった施設がないという海外からの指摘にこたえるという一つの大きな役割を担えると思っていることと、仲裁の場合は1週間とか、たとえば何か月に何回とか複数回ありますので、それだけ海外からや日本からのビジネス関係者が集まり、法曹関係者も集まります。その集まりが一つの大きな現象だと思うので、宿泊であるとか飲食も含めて、世界の中に置いて、アジアにおいて、国際ビジネス紛争の解決の拠点という付加価値がついてきます。そこに仲裁のみならず、多少時間の余裕があれば日本もしくは東京全体とか観光の時間もありますでしょう。ビジネス面において日本が仲裁地になると契約等々の中にそれが盛り込まれていき、経済的効果という面も考えられるという意味の波及効果も考えられます。

【近藤誠一座長】

はい、インバウンドについて非常にお詳しい、アトキンソンさんもしよろしければ今日のテーマについて何か一言いただけますでしょうか。

【デービッド・アトキンソン委員】

今日は、皆さんの専門の分野で、次回の分野で興味がある。ここは、専門外で遠慮します。

【近藤誠一座長】

レ・アールとか、ロンドンのコベントガーデンとかいろいろな再開発の例をご覧になって、今日の段階的な発展とか、周辺とのつながりとか、何かお分かりになっていることとかあれば。

【デービッド・アトキンソン委員】

次のところで、どういう風に考えるかによって、ここの分野に関しては、セットで考えるとそういう風になるかと思うが、広がりとか時間軸というのは今日の話聞いてそういう考え方があるのだと思うが、スケールが全然イギリスと違いますし、今日の例は、なるほどと思いつつも、キングスクロスというのは、日本でいうと新宿みたいなところですから、そことの比較はどうなのかというところで、似ているところがあれば、似ていないところもある。

いま、言われたイギリスのコベントガーデンとかの再開発は都心部のど真ん中なので、立地条件はちょっと違うなと思うし、似ているような、似ていないような感じだと思う。

広がりのところに関しては、いままでの東京都における開発等を考えれば、魅力をどういう風に磨き上げていくかによって、そういう広がり等との問題を解決ができる部分があれば、できない部分もあるという風に思う。次の3つに大きくかかっているかと思う。

【デービッド・アトキンソン委員】

この前の視察の時、気になることだが、実際に移転する前に市場の記憶、記録を残すということで、そこで映像を撮っておいて、人間が実際にどういう仕事をしているかということを残す価値が非常に高く、写真とかで、物理的にこの建物がどうなっているかというのも大事だが、実際にみなさんが、築地市場をどういう風に使っているのかどういう人間の、商売は商売だが、どういう人間文化がそこにあったか記録する画像が非常に価値が高いと思う。

築地は文化財ではないが、日本の文化財行政でこの梁がどうだとか、建物がどうだとかというのも大事だが、それだけでは語りきれない。移転するまで時間がないので、実際にモノをどう動かしたとか、どういう風にセリをしたとか。この前行ったときに、その中に生活をしている人間ではなくて、かなり太っているお友達が顔を出していたが、それも、すし屋の方に行くと、それが築地の大事な文化でもあるようですが、皆さんも否定しないし、そういうものを含めて築地市場はどういう毎日であったのかということを残すべきものだと思う。

友達関係で思い出したが、ロンドンでいろいろなところで問題になっていて、六本木ミッドタウンの開発で、旧防衛庁を壊したとき、青山に対していろんな動物が流れてきて大変な事態になったが、築地を全部つぶしていく段階で、おそらく海の方にはいかないだろうから、銀座の方にいろんな、特別に会いたいと思わないようなお友達が、観光客とショッピング、食事をしているみなさんのところにいきなり顔を出すと大変なことになる。みなさんは、言うまでもなく十分に準備していると思うが、大事なところではないかと思う。

特に観光客、インバウンドとかご指摘のところ、いきなりそういう事態になると、全世界に広がるので、そういうところをしっかりとやっていただきたい。

【近藤誠一座長】

2点とも大変大事だと思う。今の築地の人が生きているその雰囲気なり、記録をどう残すか。単なる図面とか写真とか動画では、それだけでは表面的なものになってしまう。生きたオーラルヒストリーでも何でもよいが、今生きている人、セリをしている人の体験を、できるだけ生々しい体験を何らかの形で整理して、それをずっと記憶に残るように、あるいは、記録に残しておくということが大事です。これは短期間でできることではないので、今からでもすぐに、これからの再開発のプランを作るのと並行して進めること、それによって今の築地の生きた姿をどうやって残すかを考えるということも大事だということ、

現地視察でアトキンソンさんと話したことを思い出しました。

直接今日のテーマという訳ではないが、あるいは、今後ともこの検討委員会のテーマではないかもしれないが、極めて大事な点だと思う。ぜひ記録のためにも、今の点は私からも強調しておきたいと思う。

二点目は、どの動物を指しているかお察しと思うが、確かに大きな地域の開発をすると、生態系、鳥、虫、動物、魚であれ、様々な影響を与えることは周知の事実。どうすればどうなるかあらかじめ予測することはできないかもしれないし、彼らが主役でないかもしれないが、環境は次回のテーマでもあるし、人間にとっての環境、緑をどうするかということだけではなく、地域全体の生態系に何らかの影響が与えられることは間違いないので、そうした点への配慮、考慮ということも必要かなということも、現場で話をした。

【小池達子委員】

先ほどの質問に正確にお答えできなかったかと思うので、追加させていただきます。仮に国際ビジネス紛争の拠点ができただけの場合、中核となったあと、目に見えることもお尋ねだったかと思いますが、国際的に大きな仲裁機関というものがあるので、その日本支社とか東京支部とか、それに伴うスタッフ事務所とか、外国の法律事務所の東京事務所などが目に見えた形で波及していくかもしれないと考えます。

【近藤誠一座長】

どうもありがとうございました。それでは、本日の検討会議での議論はこれで終了とさせていただきます。次回、残りの3つを中心に、しかし当然ながら全体から見えた要素でございますので、アトキンソンさんに大いに期待をしておりますので、たっぷり時間をかけて全体の議論をしていきたいと思っております。それが最終的なまとめにもつながる一つのステップになるのではないかと思います。

それでは、事務局から何かご連絡事項ございますか。

【木村まちづくり調整担当部長】

次回、第5回の検討会議でございますが、日程等につきましては追って連絡させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは、以上でございます。

【近藤誠一座長】

ありがとうございました。それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —